

## 「信州大学ヒマラヤ杉」の思い出

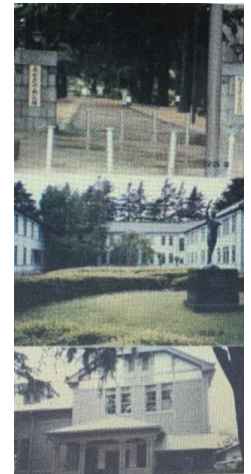
先日、フェイスブックの投稿から「6.5 長野県民のつどい」の写真に目がとまった。野党共闘が厳しさを増すなか、信州市民連合の活動に期待したい。この写真に注目したのは、会場が松本の「あがたの森」で、ヒマラヤ杉から遠い昔を思い起こしたからだ。



1967年に信州大学人文学部に入学して、2年次の専門から「あがたの森」、当時は人文学部キャンパスで学ぶことになる。正門からヒマラヤ杉が続き、つき当りに思誠寮があった。木造の校舎は風格があり、凍てつく冬には薪ストーブで教室を暖めた。写真下2つ目の1階の教室が記憶に残る。2階はゼミや勉強会、会議などで利用したと思う。



忘れもしないのが、写真下3つ目の会議室の2階である。1年は「ひきこもり」生活を送ったが、2年半ばかり「活動的」になり、自治会役員もつとめた。会議室で教授会と交渉していたとき、ここが一部の学生により占拠され閉じ込められた。全国で大学紛争が吹き荒れ、信州大学人文学部でも学部改組問題をめぐり、大学民主化が叫ばれるようになった。静かなキャンパスも騒がしくなっていた。



昨日も投稿した猪瀬直樹は、いわゆる信大「全共闘」のトップであった。彼らは講堂に立てこもり、正門にはバリケードを築き封鎖した。ヒマラヤ杉のキャンパスに立ち入りできなくなり、長期にわたり休講が続いた。猪瀬らにより、学問の場が奪われ、公民館などで自主的な勉強会などを余儀なくされた。貴重な大学生活、勉学の時間を奪われたことに、今でも激しい怒りを覚える。

猪瀬はその後「作家」としてデビューし、マスコミを賑わすようになる。東京都知事に当選したが、「政治資金」問題で辞職に追い込まれ、公民権も停止された。維新からの誘いにより、大阪府・市の「特別顧問」に就任して、今回の参院選に日本維新の会の比例区候補として立候補する。猪瀬の世渡り、変身ぶりには驚かされるが、これも彼の特徴の一つであろう。

そして維新女性候補に対する猪瀬の「セクハラ」行為である。あの映像を見ていると、恥ずかしくなってくる。猪瀬と維新から目が離せない。

(2022年6月19日)